

演習 3

家族を理解する

家族は社会の最小単位であり、地域で健康と暮らしを支える看護を行うためには「家族」を1つの単位としてとらえる必要がある。ここでは、事例を通して、家族を看護することの理解を深める。

● 学習目標

- ① 自分の家族を通して、家族の定義や機能の理解を深める。
- ② 事例の看護を通して家族を1つのシステムととらえ、看護の対象として理解することの必要性が理解できる。

● 学習の進め方

ワークシート1 ▶ 看護の対象として、家族を理解しよう。

- ① 自分にとって家族とはなにかを考えて **ワーク1** に記入する。
- ② **ワーク1** の回答をもとに、**ワーク2-1** で、自分にとっての家族の機能として該当するものに○印をつける。
- ③ 1955(昭和30)年ころの家族の機能と **ワーク2-1** で○をつけた機能を比べて、家族の機能がどのように変化してきているのか考える。
- ④ 1992(平成4)年と現在の平均世帯人員や世帯構造の変化を調べて **ワーク3** に書き込み、家族の形態の変化について考える。
- ⑤ 事例を読み、このような家族は家族といえるか否かを考え、**ワーク4** にその理由とともに記入する。

ワークシート2 ▶ Aさんの事例を通して、看護の対象として家族を理解しよう。

- ① 事例を読んで、わからない言葉を自分で調べて事例の理解を深める。そのうえで、看護の対象として家族をとらえる意義について **ワーク1** に書き込む。その後、数人のグループで互いの意見を確認する。
- ② **ワーク2** に、Aさん家族のジェノグラムとエコマップを描いてみる。グループで話し合って描いてもよい。
- ③ できあがったジェノグラムとエコマップから、Aさんの家族についてみえてきたことを、**ワーク3** に書き込む。



ワークシート1 看護の対象として、家族を理解しよう。

ワーク1 自分にとって家族とはなにか、考えてみよう。

ワーク2-1 あなたにとっての家族の機能として、該当するものに○をつけてみよう。

1. 情緒的機能(安心感や信頼感を与えるなど)
2. 社会化と社会布置機能(子どもをしつけ、社会に出せるようにするなど)
3. ヘルスケア機能(老いた親を介護するなど)
4. 生殖機能(子どもを産む、子孫を残すなど)
5. 経済的機能(生活・教育などの消費機能など)

ワーク2-2 昭和30年代は**ワーク2-1**の2, 3, 4が主要な家族の機能であったが、現在ではどうだろうか。考えてみよう。

ワーク3 家族の形態がどのようにかわったか、約30年前と比較してみよう。

●平均世帯人員と世帯構造別構成割合を調べてみよう。

		1992(平成4)年	現在	
平均世帯人員		2.99人	人	
世帯構造別 構成割合	単独世帯	21.8%	%	
	核家族世帯	夫婦のみの世帯	17.2%	%
		夫婦と未婚の子のみの世帯	37.0%	%
		ひとり親と未婚の子のみの世帯	4.8%	%
	三世代世帯	13.1%	%	
その他の世帯	6.1%	%		

●その他の世帯にはどのような世帯があるか、あげてみよう。

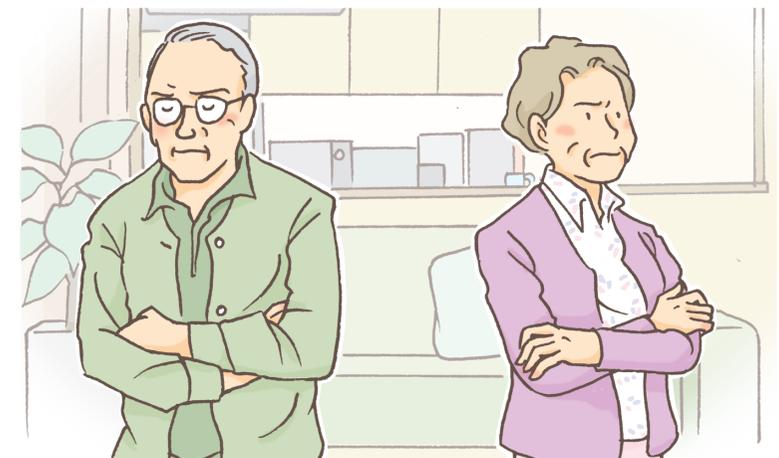
事例

とても仲のわるい老夫婦。子どもは独立して家庭内別居状態。2階に妻が住み、1階に夫が住む。掃除も洗濯も別々。妻の年金が少ないため、夕食を妻が準備するという契約で、夕食にかかる費用は夫が負担することになっているという。どちらかが病気になっても面倒はみないと互いに言っている。2人のコミュニケーションはまったくない。

ワーク4 事例のような家族は、家族といえるのだろうか。

いえる / いえない

どんな理由で、あなたはそう考えたのだろうか。



ワークシート2 Aさんの事例を通して、看護の対象として家族を理解しよう。

事例

1) 療養者の紹介

Aさん：80歳代半ばの女性。40年近く小学校教諭を務めていた。晩婚であったが、ひとり息子が生まれ、その後離婚し、女手一つで養育した。ひとり息子が他の都道府県に転勤し、そこで勝手に結婚してしまったことが気に入らず、嫁姑の確執は深い。息子が再び転勤で戻ってきて、20年近く前から同居を開始したが、同居後もAさんの、息子の妻をみる目は厳しく、息子の妻からAさんに話しかけることはほとんどなく、口を開くと言い争いになる。

病気の経過：半年前に肺炎で入院。その後、肺結核の診断がつき療養生活が長びく。入院前は日常生活動作はなんとか自立していたが、入院後、下肢の筋力が低下し、徐々に寝たきり状態になった。軽度認知症がある。退院時に家族が週1回の訪問看護を希望し、訪問看護が開始された。

〈訪問看護開始時の状況〉

日常生活自立度：Cランクの1 要介護度：4

社会資源の活用状況：デイサービス週1回、訪問看護週1回

2) 家族の紹介

息子：40歳代後半。今回のAさんの在宅療養を決断する。息子の妻によると、Aさんの様子を見て「かわいそう」と言っているとのこと。会社員で土・日曜日は休み。夜7時ころに帰宅する。

息子の妻：40歳代後半。他県の出身。以前は近所でパートで働いていたが、Aさんの在宅療養のため仕事をやめて専業主婦となった。夫の期待にこたえ、嫁の役割を果たそうと努めている。掃除や料理が好きで家事はていねいにこなす。言いたいことははっきりと言う。子どものクラブ活動支援が楽しみで、子どもの話になると表情が明るくなる。

孫：大学生(19歳)と高校生(17歳)の姉妹2人。長期休暇中も訪問時にはほとんど顔をみかけない。クラブ活動で不在か、家にも2階から降りてこない。母親とのコミュニケーションは良好である。



訪問看護場面1

[在宅療養を開始して1か月が経過した8月21日、猛暑日]

看護師：「あのう、入浴させてあげたいと思うのですが……」

息子の妻：「えー、誰がですか？」作業していた手を休めて大声で言う。

看護師：「いえ、私たち2人いますので、私たちで入れて差し上げられたら……」

息子の妻：「いえ、困ります。狭いし、掃除もたいへんだし、かぜをひかれても困るし……」と一気にたたみかけるように言う。

看護師：「そうですね。あとかたづけも、たいへんですしね」

(しばらくして)

息子の妻：「私が義母の垢が受け入れられたらいいんですが……」と表情をかえずに言う。

看護師：「……」

息子の妻：「シーツをかえるときは私がかまますればすむんですが、でも、第一、この人、お風呂きらいです」

看護師：「わかりました。ただ、2人いますので、お風呂に入れてあげられるかなと思っただけなんです」

息子の妻：「すみません。せっかく言っていたのに。でもこれから先のことも考えないと……ずっとみるつもりではいますから……」

看護師：「こちらこそすみません。たいへんなこともわからずに……」

その後、介護の心理的負担を訴え、9月上旬には週4回のデイサービスを希望する。そして、9月16日から週4回のデイサービスが開始となった。

訪問看護場面2

[9月18日の訪問]

息子の妻：「週末に、私が言語障害になったのです。言葉が出にくいのです。ほかの家族はこれに気がついてくれません」「オムツの時間になると動悸がします。いやでいやでしかたがありません」「オムツ交換を義母がいやがり、力を入れるものだから右手首が痛みます」

看護師：「週4回デイサービスが利用できるようになり、気持ちはらくになりませんでしたか」

息子の妻：「気持ちはらくです。いないとぼーっとできます。でも3時すぎに帰ってきたらずっと私のことを呼ぶんです。その声を聞いていると、しんどくなるのです」

看護師：「夕方、ご主人が帰ってこられても同じですか」

息子の妻：「主人がいると主人を呼びます。でも主人も近ごろはいやなのか、ほうっておけと行って自分行ってくれないのです」「もうがまんできません」「主人は手が痛いといっても私の介護の方法がわるいというのです。なにも言えません」

ワーク1 Aさんの事例を通して、看護の対象として家族をとらえる意義について自分の言葉でまとめ、グループで共有しよう。

ワーク2 Aさんの家族のジェノグラムとエコマップを書いてみよう。

● ジェノグラムとエコマップの描き方

ジェノグラム：家族内の人間関係を図にしたもの。血縁関係や親族関係がわかる。家族内のキーパーソンを探る意味でも重要な資料となる。

エコマップ：生態図ともいわれ、家族の活用している社会資源の情報を図式化したもの。家族とその外部の種々のシステムとの関係を示す。

ジェノグラムとエコマップを合わせて一面に示すことで、家族関係と社会資源や社会との交流が見える。

記入の仕方

女性は○ 男性は□

(亡くなった人は×印であらわす)。

強い相互の関係 

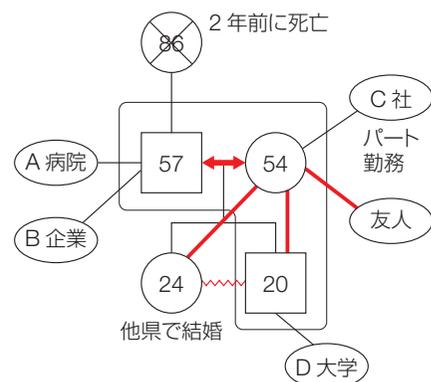
一方向的な関係 

友好的な関係 

疎遠な関係 

葛藤のある関係 

【記入例】



ワーク3 エコマップやジェノグラムから、Aさんの家族についてみえてきたことをまとめよう。